



沈黙の大工ヨセフ

5月1日は、労働者聖ヨセフの記念日です。「この記念日は1995年ピオ12世によって定められた。イエスを育て、青年イエスと家庭生活を送ったナザレの大工ヨセフは、キリスト者に労働の尊さの模範を示している。」(「毎日の読書」より)

「この人は大工の息子ではないか。」(マタイ13、55)「この人はヨセフの子ではないか。」(ルカ4、22) イエスに投げかけられたイエスと同時代人々の声です。大工のヨセフは、マリアとイエスのナザレでの生活を守り、支えました。

ヨセフの特徴は守護者であることであり、守護者であることがヨセフの偉大な使命です。ヨセフのことを福音書はほとんどなにも語っていません。ヨセフは、全くの沈黙と謙虚さをもって家族を守る使命を果たしました。ひそかに誰にも知られないうちに、自分のなすべきことを忠実にまた誠実に積み重ねて行ったヨセフの働きに魅力を感じます。

「右の手のすることを左の手に知らせてはならない」(マタイ6、3)という生き方を貫いたヨセフに学びたいものです。「自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならないことをしただけです』と言いなさい。」(ルカ16、10)

新司祭・新助祭叙階される



ローマ教皇世界広報の日メッセージ

いつくしみの特別聖年は、コミュニケーションといつくしみの関係について考えるようわたしたちを招いています。実際、キリストと結ばれた教会、いつくしみ深い御父の生きたからである教会は、その存在と行動全体の特徴であるいつくしみを生きるよう求められています。わたしたちの発言、言い回し、一つひとつのことばやしぐさは、すべての人に対する神のいつくしみと優しさ、ゆるしを表わすものでなければなりません。愛は本来、コミュニケーションであり、人の心を開き、孤立させません。わたしたちの心と行いが慈愛によって、神の愛によって促されるなら、わたしたちのコミュニケーションは神の力を伝えるものとなるでしょう。

わたしたちは神の子として、一人残らずすべての人とコミュニケーションを取らなければなりません。とりわけ、教会のことばと行いの特徴は、人々の心を動かし、いのちの充満への道を歩む人々を支えるために、いつくしみを伝えることです。イエス・キリストは、いのちの充満をもたらすために御父によって遣わされ、すべての人のもとに来られたのです。このことは、母である教会のぬくもりを、イエスが知られ愛されるように、自分自身の中に受け入れ、周囲の人々に伝えることを意味します。そのぬくもりは、信仰のことばに内容を与え、宣教とあかしを通してそれらを生き生きとさせる「火花」を燃え上がらせます。

コミュニケーションには、かけ橋を築き、人々が出会い、社会にとけ込めるよう手助けする力があり、それにより社会はより豊かになります。人々が誤解を解き、傷ついた記憶をいやし、平和と調和を確立するために、ことばと行いを注意深く熱心に選ぶさまを見るのは何とすばらしいことでしょう。ことばは人々の間、家庭や社会団体、諸民族同士の間にかけ橋を築くことができます。それは、物理的領域でもデジタル領域でも可能です。したがって、ことばと行いは、人や国を混乱させ、憎しみのことばで表現するよう仕向ける、非難と報復の悪循環からわたしたちが脱する助けとなるべきです。一方、キリスト者のことばは、つねに交わりを促すものであるはずで、悪を強く非難すべき場合にも、決して人間関係やコミュニケーションを壊そうとはなりません。

(前半3節抜粋)

(カトリック中央協議会 訳)

主な教会暦(主日を除く)

05月03日	乙女峠 聖フィリポ 聖ヤコブ使徒(祝日)
05月08日	主の昇天(祭日)
05月14日	聖マチア使徒(祝日)
05月15日	聖霊降臨の主日(祭日)
05月22日	三位一体の主日(祭日)
05月29日	キリストの聖体(祭日)
05月31日	聖母の訪問(祝日)



(ホームページ)

